



みなとからの風

〒231-8682 横浜市中区新山下3-12-1 / TEL 045-628-6100(代)
http://www.yokohama.jrc.or.jp/

・発行：2019年5月 医療連携センター

Contents

- ・ 副院長就任のご挨拶 P1
- ・ 医療連携センター長、副センター長就任のご挨拶 P2
- ・ 入退院支援センターの活動について P3

副院長就任のご挨拶

横浜市立みなと赤十字病院 副院長 武居 哲洋



平成31年4月より副院長を拝命いたしました武居と申します。執筆時点で平成も残すところあとわずかとなり、新元号を迎えるにあたり気持ちを新たにしております。

私の専門は救急・集中治療分野ですが、近年は医療の質改善、医療安全推進、チーム医療推進、学会における診療報酬改定など多岐にわたる活動に関わる機会をいただきましたことを大変有り難く思っております。

思い起こせば当院に赴任する以前の2000年前後、我が国の医療は多くの難題に直面していました。卒後臨床研修制度の導入に伴う古典的な医局制度からの脱却のパラダイムシフトは、間接的には地域医療崩壊の一因ともなり、同時に公立病院の赤字問題や一部の診療科・地域における医師偏在問題がクローズアップされました。医療事故の話題が毎日のように新聞紙面をにぎわせ、医師のパター

ナリズムの終焉とともに医療安全に関する国民の関心も急速に高まりました。

米国ではすでに管理されていた医師の長時間労働問題も、この頃から取り沙汰されるようになりました。一方で病院の統廃合、高度な手術や医療技術の集約化といった医療の効率化の方向性には常に反対意見が伴い、ジレンマを感じると同時に急性期医療に対する地域住民の圧倒的なニーズも感じたものでした。

当時若輩であった私は、ともすれば崩壊の危機にある医療の抱える課題をもっと知りたいという気持ちから、医療管理政策学という夜間の大学院に2年間通いました。当時の課題が15年以上経過した現在の働き方改革、医療安全全国共同行動、専門医制度改革などにつながっているものと理解しています。

2025年はもう目の前であり、我々はさらにその後30年を見据えた適切な医療を展開する準備をしていく必要があります。地域医療のニーズにマッチした急性期病院の役割をより一層推進していく所存ですので、引き続き、みなと赤十字病院を何卒よろしくお願い申し上げます。

医療連携センター長就任のご挨拶

医療連携センター長 竹本 安範



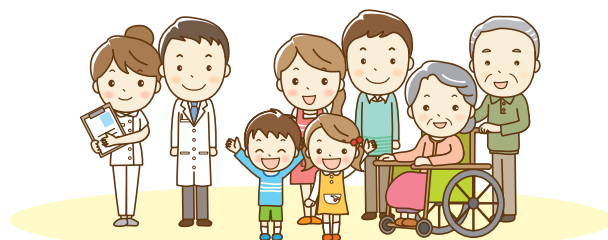
2019年4月より医療連携センター長を務める事となりました。私の診療担当科の脳神経外科では、これまで多くの症例をご紹介いただいたうえ、脳卒中連携パスなどを通じた医療連携では大

変お世話になり深く感謝しております。今後は病院全体の連携業務に係わってまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

当院は2009年地域医療支援病院の指定を受け、地域の健康に貢献すべく関連医療機関・福祉機関の皆様のご協力、ご助言を頂きながら連携を深めてまいりました。おかげさまで現在登録医は医科649施設、歯科133施設までに増え、昨年度紹介者数は約23,000件(紹介率76.2%)、逆紹介者数は約20,000件(逆紹介率84.3%)に達しました。またMRI、CT、RI、PET、骨密度検査などの高度医療機器の共同利用に関しましても1,672件となりました。これらは年々増加傾向であり、ひとえに皆様のご支援の賜と心よりお礼申し上げます。

昨年度より入退院支援センターがオープンし、入院から退院後の医療、介護、福祉まで一貫して患者さんを支援していく体制も整いました。ますます医療・福祉環境が厳しくなる中で、患者さんが地域でその人らしく社会生活や療養生活をおくれるようにするために我々が果たすべき役割はさらに大きくなっていくものと考えています。

医療連携センタースタッフは医師4名、看護師6名、MSW8名、PSW2名、事務職16名、総勢36名となりました。これからも皆様に気軽にご利用いただけるようなシームレスな医療連携を目指し、地域を支え地域に支えられる病院になるよう一同努力してまいります。そのためにも当院へのご意見、ご要望を医療連携センターまでご連絡なくお伝えいただけましたら幸いです。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



医療連携副センター長就任のご挨拶

医療連携副センター長 伊藤 智



日頃から各地域の先生方には、当病院の地域医療連携にご協力を賜り誠にありがとうございます。この度、医療連携副センター長を拝命いたしました心臓血管外科の伊藤智と申します。

心・技・知を持ち合わせた医療人を目指して、患者さんにより良い生活を送っていただけ

るための治療を心がけています。

地域の医療の状況に応じて医療の機能分担や専門化を進め、診療所と病院、病院と病院など相互に円滑な連携を図り、当院の有する機能を有効かつ迅速に継続性のある適切な医療を受けることができるようにしたいと考えています。地域に根ざした病院として、地域の人々のための安心な高度先進医療を目指します。今後ともより一層のご支援とご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

入退院支援センターの活動について

当院における入退院支援センターの活動

入退院支援センター長 杉田 光隆

当センターは、患者さんが当院を受診された時点から、入院生活、さらには退院後の療養における不安を取り除き、安心して医療を受けていただけるよう、一貫した切れ目のない支援を提供することを目的として、2018年に設立されました。

専任、兼任の看護師、薬剤師、社会福祉士、事務職員を配置して①入院してから退院までの治療の流れや、入院に際しての事務手続き、準備する物品の説明を行う②入院前に退院困難な要因を早期にスクリーニングして外来の段階で療養支援を開始する③服薬している薬剤を薬剤師がチェックしてリストを作成、入院加療に際し中止すべき薬剤の中止時期等を説明する等の入退院支援業務を全診療科、予定入院全患者を対象として行っています。

さらに周術期管理の一環として、歯科による口腔ケアの導入も開始しました。

今後とも患者さんが安心して入院加療を行えるよう支援内容を充実させていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。



入退院支援センターを通じた周術期口腔管理

歯科口腔外科部長 向山 仁

2018年10月から入退院支援センターを通じてがんや心臓血管外科手術などで入院される患者さんについて口腔管理を行うこととしました。これは、手術や化学療法前に口腔管理を実施することで、患者さんの入院中のQOLを高め、創部感染リスクを減少させ、在院日数を短くするものとして、診療報酬上も認められているものです。

入院まで3週間以上ある場合は原則としてかかりつけ歯科で開始し、3週間以内では当科で開始し、入院中の管理を当科で行い、退院後はかかりつけ歯科で管理して頂いています。口腔管理から患者さんの全身の健康に貢献していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

紹介患者さんのお問い合わせご予約は医療連携課で承ります

電話 045-628-6365(直通)/FAX 045-628-6367(直通FAX) 受付時間 平日 8:30~17:00



横浜市立みなと赤十字病院

〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下3丁目12番1号
TEL:045-628-6100(代表) FAX:045-628-6101



<http://www.yokohama.jrc.or.jp/>

みなと赤十字

検索

病院ホームページ